



筑波大学大学院人文社会科学研究所哲学・思想専攻 主催  
第五回フランス語によるフランス哲学セミナー

〈プレイヤッド叢書〉  
中世キリスト教靈性詞華集の編纂に挑む  
- 文学と靈性のあいだで -

講師 セドリック・ジロー 上級准教授  
(フランス・ロレーヌ大学)

2018年2月13日 (火曜日) 16時～18時  
筑波大学東京キャンパス 557ゼミ室 (5階)

Cédric Giraud氏 (ロレーヌ大学史学科上級准教授) は、1977年生まれ。2002年、フランス国立古文書学校卒業。専門はヨーロッパ中世史。とりわけ中世から近世にかけての靈性の変遷に詳しい。代表作に『師の言葉を介して：十二世紀におけるランのアンセルムスとその学派』(2010年、Brepols社)の他、Etudes augustiniennes叢書から、擬アウグスティヌスの『ソリロキア』『提要』と擬ベルナルドゥスの『瞑想』を中心とする大著『擬作家による瞑想関連コーパスの誕生と変遷：中世から近世に至る靈性とテクスト史』を2016年に上梓 (いずれも未邦訳)。また、フランス・ガリマール社刊プレイヤッド叢書からは、十一世紀から十五世紀までの瞑想に関するアンソロジーを刊行予定。収録予定は、カンタベリーのアンセルムス、擬ベルナルドゥス、擬アウグスティヌス、サン=ティエリのギヨーム、カルトゥジア会のガイゴ二世、サン=ヴィクトルのフーゴー、クレルヴォーのベルナルドゥス、サン=ヴィクトルのリカルドゥス、トマス・アキナス、ボナヴェントゥラ、ハインリヒ・ヅイゼ、ジャン・ジェルソン、カルトゥジア会のドウニ、トマス・ア・ケンピス、そしてヨハネス・マウブルヌスの著作である。三年目を迎えた日本学術振興会科研費基盤B研究課題「中世後期から近世初期までの〈メディアタチオ〉に関する国際協働による哲学史的総合研究」(研究代表者・谷川多佳子)の一環として、このアンソロジーについて、なぜこれらの作品が中世靈性関連原典集成として理想的なのか、その点を中心にご紹介・ご解説いただく。セミナーはフランス語で行われ、フランス語オリジナル原稿を配布予定。事前予約不要かつ無料にて来聴歓迎。お問い合わせは、筑波大学人文社会系准教授・津崎良典 (tsuzaki.yoshinori.gn@u.tsukuba.ac.jp) まで電子メールにてお願いします。